

持続可能な水産業としての定置網事業の船出 ～ブリ大尽を目指して～

2019年1月29日（水）午前7時、好天の下、土々呂港を静かに一隻の船が出航していった。平成28年に事業計画を立ち上げてから約5年をかけ、待望の赤水定置網（宮崎県許可 定第6号）による漁が再開されたのである。

初日は約5トと豊漁となり、サゴシ、サワラ、タチウオ、タイ、オオニベなどが水揚げされた。

赤水定置は、明治時代に郷土の偉人であった日高亀市氏が創意工夫し作り出した「大謀網」のことであり、日本定置網の発祥とされるほど由緒あるものである。

この業績により、日高亀市氏は「ブリ大尽」と称され全国にその名を知られるようになり、宮崎県庁が選定した「宮崎の101人」にも選ばれるほどである。

由緒ある赤水定置は、県内のほかの定置網業者からも「県内随一の定置網」との評価もあり、まさに待望されていた赤水定置の再開であった。

宮崎県農林水産統計年報によると、県内の定置網漁は、明治時代からの歴史がありながら平成19年から平成27年の間に、大型定置は11基から8基と、小型定置は98基から81基と減少しており、持続可能な水産業の1つと称される定置網漁の縮小傾向は懸念されていた。

その事態打開策として、平成29年2月には宮崎市青島地区で内海定置を再開させ、そして、今回、赤水定置を再開させることができ、県内における持続可能な水産業の振興に少しでも寄与することができるものと感じている。

